令和５年度第２回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

１　開催日時　　令和５年９月 28 日(木)　15：00～17：00

２　場　　所　　東北森林管理局　２階　大会議室

３　出 席 者　　高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、児玉委員、安部委員、伊藤委員

４　検討結果　　木材需要は、新築の住宅着工戸数や床面積の減少が長引くことで低迷を続けている。例年であれば秋に需要期を迎えるが、実需の低迷が継続しており当用買いに終始していることから製品相場が上向くような情報も聞こえてこない。こうした中、集成材・LVL 工場や合板工場における製品価格の引下げの影響を強く受け、これに加えて生産調整・入荷制限が引き続き行われていることから、原木価格は再造林が難しくなる水準で推移している。

原木供給には地域差があるが、製材用、合板用原木ともに需要が少ないことから伐採量が減少している。

また、７月の集中豪雨により秋田県内を中心に大規模な被害が発生しており、国有林から素材生産の減少、立木公売の取りやめなど発生しているが、需給バランスの変動に伴う材価上昇は見られていない。加えて、秋田県能代市に建設中の大型製材工場において原木集荷時期が具体化してきているものの、材価底上げの期待に乏しいものと見込まれている。

以上のことから、国有林に対しては、「現時点での供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視し、新たに集荷を始める大型工場の影響も把握しつつ、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくよう求める。」と報告する。

５　主な意見

○　合板工場や LVL 工場での受入れ調整が続き、製材や集成材、LVL 用が全般的に弱気配である中、相場が上向くような情報は乏しく、原木納入に関しては今後も厳しい状況が続くと推測される。製紙・燃料用や合板の価格に大きな変動はなく、製紙・燃料用は今後も現状維持と思われ、合板用は明るい兆しがなくこの先不透明である。

○　製材用スギ原木は入荷制限中であるものの一定量を安定的に受け入れている一方で、製材用カラマツ原木は在庫消化中により受入れは停止している。集成材の製品価格は弱含んでおり原木価格もラミナ価格も続落しているが、スギ集成材の製品価格は小康状態に入ると推測する。

○　素材販売量はＲ５年４月～６月は前年比約 80%、７～８月の納入量は前年並みになりつつあるが、燃料材の増加によるとこが大きく、販売量については燃料材以外の需要は販売希望量の 60%だった。合板工場や集成材工場の減産により、原木価格に影響が出ており、合板・集成材用素材ともに段階的に値下げが続いている。小径木丸太および用材の地元利用が必要だと考える。

○　基本的にものの動きはよくない。製材所の需要が少ないことで山での生産量が少なくなり、チップ用原材料が足りていない。合板メーカーは 7 月に値下げをし、納入量が抑えられると、今後さらに素材生産量が減少すると推測する。製材品は全般的に「値を下げても物が動かない」状態だが当面の当用買いの様子を注視しながら秋口からの非住宅系需要に期待。

○　製材及び合板の各メーカーは２～３割の計画的減産又は自然減産している状態。製品需要の停滞によって、素材生産側での原木の動きが鈍化している。製材所の原木価格は底値であり、今後値上がりすると考える。また、多くの大工が 7 月の大雨被害の復旧に携わると考えられることから、秋田県の新築住宅着工数は低迷すると推測する。中国木材は今後 10 月に原木の値合わせ、11～１月に仕入れ（約 5000㎥/月）、1 月に工場稼働、4 月から乾燥、7 月から加工という流れで動く予定。

○　住宅着工数のみならず床面積も減少し、需要が低迷している。合板メーカーは生産調整を続けており、原木在庫は超過傾向にあることから、素材価格はスギは引き続き弱保合、カラマツは保合である。今後も需要低迷は長引き、素材の受け入れ制限や製品の荷動きの停滞が続くと推測する。

○　素材、製品ともに厳しい状況が続いているが、中国木材の受入れの話も出ており、原木入荷量は十分ではないと危機感を覚えている。鹿島工場の火災以降、中国木材では供給量が火災前の 70%程度になっている中、非住宅の問い合わせが増加しており、特に 4 寸対応ができていないとのこと。9～11 月は国内在庫での対応が迫られている。中国木材の割り当ても決まっており、非住宅関係が焦っている様子が見られる。

○　住宅着工数が低迷している理由としては、生産人口が減っており需要の増加が見込めないこと、建材価格や人件費の高騰、物価と収入のアンバランスによるローン返済能力（見込み）の低下等の複合的な理由が考えられる。